

取組の柱④：「海」から「空」へ広がる安全保障・安全利用の取組

事例④⑧：インド太平洋方面派遣（IPD）

1. 基本的な考え方

- インド太平洋地域の平和、安定及び繁栄の鍵は「自由で開かれた海洋」であり、海上自衛隊は、IPDとして、インド太平洋地域に部隊を派遣し、地域の安定と平和及び海洋秩序の維持・強化に向け、米豪印をはじめ、カナダ、フランス等インド太平洋地域に展開する主要国やASEAN諸国、太平洋島嶼国の海軍等との防衛協力・交流を実施。
- 海上自衛隊と米海軍との関係はかつてないほど強固であり、日米同盟の抑止力・対処力の強化に貢献しており、IPDでの活動でも協力し、インド太平洋地域、ひいては世界の平和と安定に寄与。
- 海上自衛隊とASEAN諸国の海軍種関係は着実に深化しており、IPDでの活動でも協力。
- 海上自衛隊は、IPDを通じ、太平洋島嶼国が抱えている問題意識に寄り添い、ともに課題解決に向けた取り組みを実施。

2. 具体的な取組

- 米海軍等との南シナ海等における共同訓練（各種戦術訓練）
- 日米印豪共同訓練（マラバール）、日豪共同訓練（トライデント）、日印共同訓練（JIMEX）、日仏共同訓練（オグリ・ヴェルニー）をはじめとするインド太平洋地域における主要海軍国との共同訓練
- ASEAN諸国、太平洋島嶼国との親善訓練及び乗艦実習
- パシフィックパートナーシップへの参加
- 各寄港地での各種交流行事（王族、首相・大統領表敬等）

